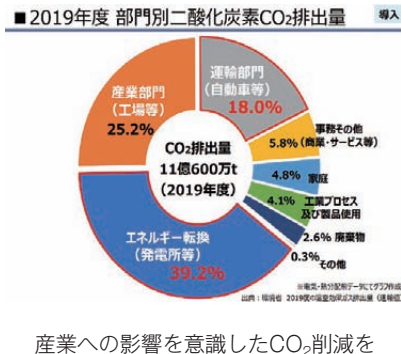




市民クラブ 大野 祐司

一 業務マニュアルについて

問 全庁的に業務マニュアルなどの作成を進めていく必要があると考えるが、業務マニュアルなどの指針を作成してはどうか。



カーボンニュートラルに取り組む 中小企業に支援を望む



要望 29年の1日当たりの入館者数は、当初想定していた2倍から3倍ほどの人数が訪れた計算になる。集中して長い期間休業することとで施設を見直し、どう改善したらより良い施設になるか検討してほしい。また、指定管理者制度の導入を考えているなら、宮永岳彦記念美術館を含めた施設の運用に



想定を大きく上回る来館者がある
鶴巻温泉弘法の里湯

答 コロナ禍以前は館内が混雑することはあっても、入場制限をするまでには至らなかった。今後も感染状況に注意しながら、適切な時期に適切な対応を行っていききたい。また、設計段階の利用計画人数は、平日が1日当たり150人、休日が300人を想定していた。



弘法の里湯のこれからを見据えた 取り組みを展開せよ



一 弘法の里湯の運営について

問 平成28年から30年の平均入館者数は、年間約16万人とオープン当初と変わらないが、健全運営の観点などから、この状況への考えはどうか。また、建設当初に想定していた入館者数はどのようか。

二 秦野特産の落花生の振興について

問 落花生の生産振興におけるこれまでの取り組みと、現在の状況はどのようか。

答 補助金制度の創設などにより、作付面積はこの11年間で2・45倍に増加している。また、市内商業者と落花生農家とのマッチングについて、安定した仕入れができる仕組みづくりを含め、関係機関と連携し検討していきたい。

要望 過去の事務処理ミスの徹底的な分析を併せて行ってほしい。

二 ゼロカーボンシティについて

問 企業がカーボンニュートラルを進めるためには、新たな費用負担が生じると思われるが、支援の考えはどのようか。

答 今後のカーボンニュートラルに向けた流れに乗り遅れることがないよう、国や県の動向を注視し

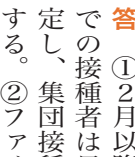
創 和 会 谷 和雄

一 特色ある学校とともに歩む地域づくりに関して

問 上小中学校に導入された小規模特認校制度による就学状況や、その効果をどのように捉えているか。

答 全児童数66人のうち、他学区からの児童は21人である。集団性の確保に加え、学力向上と併せて地域の活性化にもつながっている。

意見 上小中学校では、小規模ならではの心育む教育が実践されており、保護者から学力向上の効果も感じていると聞いている。引き続き、制度を生かした心豊かな教育の推進に努めるべきである。



コロナに気を付けながら 元気に街へ一歩出よう



一 第6波への備えについて

問 ①オミクロン株の感染が懸念されるが3回目の接種は、②5歳から11歳までのワクチンはどうか。

答 ①2月以降に、集団接種会場での接種者は日時をあらかじめ指定し、集団接種と個別接種を実施する。②ファイザー社製で小児専用のワクチンだが、接種の際は保



新型コロナウイルス第6波への備えを
(大規模接種会場となった総合体育館)

三 人事評価について

問 評価点の分布は適正と考えるが、それを反映する勤勉手当の成績率別では92%の職員に加算・減算はなく、職員の頑張りが処遇に反映されづらいと考える。評価点と成績率が一層連動するよう、区分を見直すべきだが、どうか。

答 職員の頑張りに見合った処遇反映は必要と考えるため、今までの以上に職員の意欲向上につながる制度に見直しをしていきたい。

公明 党 山下 博己

一 ひきこもり対策について

問 令和元年9月の一般質問で80代の親が50代のひきこもりの子を支え、共倒れのリスクを抱える80・50問題の実態調査と対策強化を求めたが、その後の対応はどうか。

答 新たに地域共生支援センターを立ち上げ、介護支援専門員協会(ケアマネ協会)などの協力で、ひきこもり状態にある105人を対象に実態調査を実施した。

問 待ち受け型ではなく、ケアマネ協会と連携したアウトリーチ型の



環境に配慮した 自伐型林業の推進を



問 ①緊急事態宣言発出から1年半余り、孤立や活動量の低下で高齢者の心と身体のパフォーマンスは、②近隣市町では1日200円でパークゴルフ場が利用できるが、本市に設置する考えはどうか。

答 ①介護申請件数は令和2年度と比較して月平均で20件程度増加し、社会参加の機会の減少が影響していると考え。②依然として市内への設置要望がある現状も踏まえて、新規整備の可能性を探る。

二 自伐型林業の取組について

問 自伐型林業は、環境に優しい自立採算型の持続可能な新しい林業であり、さまざまな効果が期待できる。本市で実施した場合の効果について、考えはどのようか。

答 森林整備や専門知識・技術を生かしたより高度な里山整備、新たな新たな担い手の裾野の拡大など

無 所 属 吉村 慶一

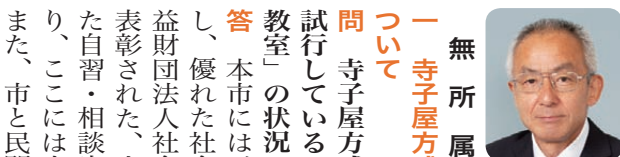
一 寺子屋方式による学習支援について

問 寺子屋方式による学習支援を試行している「北っこチャレンジ教室」の状況・費用などはどうか。

答 本市には、平成25年度に発足し、優れた社会貢献団体として公益財団法人社会貢献支援財団から表彰された、大根地区の「ひろはた自習・相談室」などの先例があり、ここには市も支援してきた。また、市と民間企業が連携した学習支援や、教育委員会にあるボランティアバンクを活用した児童ホームでの学習支援も実施してきた。それらを受けて令和3年7月より、北地区で「北っこチャレンジ教室」を毎週火・木曜日の午後2時から4時半まで開催したところ、現在33人の小学生が参加している。効果があらうということで保護者にも好評である。現在、開設時間の関係で、中学生が通うことが難しいため、中学生向けに準備を行っている。また、指導者への謝礼などの事業費の3分の2は、国・県からの補助金である。



小規模特認校である上小中学校



寺子屋方式の学習支援 直ちに全市に展開せよ



「北っこチャレンジ教室」が行われている北小中学校

問 良い結果が出ているならば、地区によって不平等にならないように、早急に全市に展開すべきと考え、どうか。

答 地域の協力が必要な事業だが、不平等にならないように全市的な展開を図っていききたいと考えている。

要望 1、2年のうちに全市展開を実現できるよう努めてほしい。

二 持続可能な林業の取り組みを

問 自伐型林業は全国での成功事例も多く、広がりを見せている状況から、本市でも実施するための環境実態調査をしてみたいかどうか。

答 令和4年度の森林整備計画改定で森林資源の現状調査を行うため、自伐型林業の可能性が見いだせた場合は自伐林家と相談し適地など具体的な調査研究を進めたい。